

尿VMAマススクリーニング報告書

小 出 亮
(国立小児病院)

今年度は前年度まで行ってきた世田谷区のほかに練馬区が参加した。

実 施 方 法

従来通りである。すなわち、テストは尿滴下用紙を用いるVMA Spot Testで、用紙回収、運搬、結果報告などはすべて区役所保健衛生課が取り扱い、テスト実施のみ国立小児病院研究班で毎週1回づつ行ってきた。

対象は練馬区の加入により増加し、テスト数は毎週約230～270件である。乳児数は世田谷区在住と練馬区在住とを比較すると、5：4である。

テスト結果(別表)

表1 NBマススクリーニング検査結果(Spot Test) 国立小児病院

	期 間	被検者	用 紙		直接尿精検 (対再々検%)	発見患者
			再検(%)	再々検 (対再検%)		
世 田 谷 区	56.5～57.1	3,575	65(1.8)	3(4.6)	3(100)	0
	57.2～58.1	6,199	123(2.0)	13(10)	4(31)	0
	58.2～59.1	6,306	104(1.6)	8(7.7)	4(50)	0
	計	16,080	292(1.8)	24(8.2)	11(46)	0
練 馬 区	58.4～59.1	3,438	57(1.7)	4(7)	2(50)	1
	合計	19,518	349(1.8)	28(8)	13(46)	1

59.1月までに合計19,518名をスクリーニングした。再検は349名(1.8%)で、100人に2名の割合である。そのうちの8%にあたる28名が用紙法による再々検を受け、そのさらに46%にあたる13名が直接尿を持参して精検を受けた。そして、練馬区内から1名の患者が発見された。

再検例をみると、8カ月以降の乳児に多く、1歳を過ぎると、大半が疑陽性を呈した。離乳食、ジュースなどによる食餌性要素の影響を示唆しているが、再々検は12人に1人の割合であった。

尿の用紙添加が不適当であったり(量的に多く、全体に拡がって浸みているもの)、用紙がもみくしゃになったりしてテスト結果判定の不能なものが1～2%は毎回みられた。これらは

「検体不良」としてやり直しており、「再検」とはしていない。

発見患者の症例報告(図表参照)

発見に至るまでの経過および診断、治療内容と腫瘍についての検索所見は図表に詳細に示した。

後腹膜旁大動脈部という比較的稀で摘除困難な部位から発生した Stage III (周辺リンパ節転移あり)の腫瘍である。大動脈をまき込んでいる関係上、放射線および化学療法を優先させ、2ヵ月後に摘出することが出来た。しかし、0歳児という点以外は Risk Factor であり、3ヵ月間入院後、現在通院治療中である。VMAは陰性を続けているが、予後に関しては楽観は許されない。

表2 マス・スクリーニングで発見された症例

Patient 折 ○ 成 ○ 男 (S 57. 12. 12 生)		
58. 7. 末	汚紙収受(練馬区大泉保健所)	
58. 8. 11	汚紙初回検査 (Spot 法) <u>強陽性</u>	{ VMA ↑ HVA ↑
8. 22	直接尿検査 定量 $72\mu\text{g}/\text{crea}$, 高速液体クロマトグラフィー	
8. 26	外来初診	
	〔腹部触診・直腸診・胸部X-P・エコー〕 — 腫瘍確認できず —	
8. 31	CT scan $\Rightarrow$ 上腹部腫瘍(+), 石灰化(+)	
9. 1	国立小児病院・外科入院	
58. 9. 9	(生後9ヵ月)	
	開腹: 摘除不能(生検のみ)	VMA (+) 124
	Linac 2,000 R CTX IV $\times 3 \rightarrow$ James	
58. 10. 11	CT scan $\Rightarrow$ Mass ↓	VMA (-) 32
	Linac 1,000 R	
58. 11. 21	摘出術	
(生後11ヵ月)	拇指頭大腫瘍(SMA根部左側・横隔膜と腎上極間)	
	肝生検: 転移(-)	
	Linac 1,000 R ADR IV $\times 3$	VMA (-) 20.5
58. 12. 23	退院	

表 3

腫瘍性状

開腹所見：

左後腹膜原発 paravertebral tumor

(正中を越え, SMA根部リンパ節腫脹あり)

Ⓣ transversemesocolon付着部

Ⓢ duodenum 右側

Ⓢ l.kidney 内側

Ⓣ 肝下面・膈直下

臨床診断：Stage III

ORC₃N_X(2以下) Bo Eo Vo BMo HoDo

病理診断：

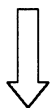
Neuroblastoma, rosette - fibrillary type, extraadrenal

左副腎には出血以外に tumor なし



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



実施方法

従来通りである。すなわち,テストは尿滴下ろ紙を用いる VMA Spot Test で,炉紙回収,運搬結果報告などはすべて区役所保健衛生課が取り扱い,テスト実施のみ国立小児病院研究班で毎週1回づつ行ってきた。

対象は練馬区の加入により増加し,テスト数は毎週約230~270件である。乳児数は世田谷区在住と練馬区在住とを比較すると,5:4である。